

生物基礎の傾向（本学個別学力試験）

はじめに

高校で学ぶ生物学は、範囲の広い、そしてたいへん深い内容を含んでいます。

それは、皆さんが大学で医療系の科目を受けるときの土台になります。さらに、皆さん自身が、つまりヒトが「自然界のなかで生きている」ということを理解するきっかけになります。皆さんの持っている『生物基礎』の教科書を読み、基本を固めてください。教科書は上で述べたような内容を、書き手が盛り込んでくれています。それに触れることが、入試対策の出発点になり、大学の勉強に直結します。

傾 向

本学の生物基礎の入試問題は、生物基礎の全範囲をバランスよく出題します。

まずは、日本語の文章を、その文脈を理解して読む力が要求されます。生物学でも、1つの単語の意味が、前後関係によって変わることがありますし、この名詞には、この動詞を組み合わせる使う、というような約束事があるからです。

さらに、図やグラフを理解する力も必要です。文字だけ単語だけではなく、具体的なモノの形を知っていること、モノとモノとの量的な関係がわかっていることが、大切だからです。

1. 解答方法：マークシート選択式です。
2. 分量：大問5題
3. 内容：『生物基礎』の、生物の特徴・遺伝子・体内環境の維持・バイオーム・生態系の全体から、かたよりなく様々なテーマを出題します。特に重要なテーマは、繰り返し出題します。
4. 形式：空欄補充問題（つまり穴埋め問題）、語句の正誤判定問題、文の正誤判定問題、簡単な数値や計算を扱う問題などを出題します。

学習のポイント

生物が生きている状態では、複数の事柄が互いに関係しています。

一つ一つの単語を根気よく暗記する学習が大切です。この時に、教科書を読むことが役に立ちます。本文を読むことで言葉と言葉の関係が自然に頭に入ります。また、教科書の図やグラフが、理解と記憶の助けになります。

次に、細胞なら様々な細胞について、循環系なら心臓・血管・血液などの関わりについて、バイオームならバイオームを構成する様々な生物たちを、そして、一つの単元の全体を思い浮かべてみましょう。この時にも教科書のページをパラパラとめくることが役に立ちます。「その単元で結局何を勉強したのか」を考えることで、より広くより深く生物学がわかってきます。